

吸入ステロイド薬ハンドブック

吸入ステロイド薬 ハンドブック

より良いぜんそく治療のために

監修：東邦大学医学部 客員教授 富岡 玖夫

このハンドブックに関するお問い合わせ先

TEL: ☎0120-561-007

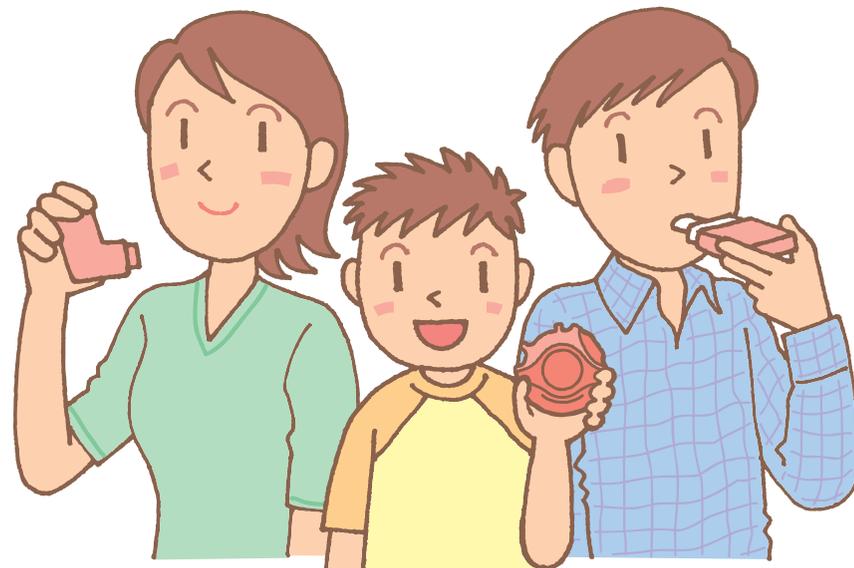
(9:00~18:00/土・日・祝日を除く)

FAX: ☎0120-561-047 (24時間受付)

ぜんそくに関する情報を
ホームページに掲載しています。

<http://zensoku.jp>

※携帯電話からもアクセスできます。iモード、ポータルライブ!、EZweb対応



01CM1E-P0603N
作成年月2006年3月 (MKT)

グラクソ・スミスクライン株式会社

はじめに

東邦大学医学部 客員教授
富岡 玖夫

ぜんそくは、古くからある病気ですが、その治療方法はなかなか定まらず、時にはマスコミや民間療法で精神面ばかりがクローズアップされたり、鍛練の必要性だけがひとり歩きすることもありました。

しかし、近年ぜんそくは大人でも子供でも気管支の慢性的炎症による病気であると考えられるようになり、その治療法についても明確な指針が作られるようになりました。

大人の領域では厚生労働省免疫・アレルギー研究班による「喘息予防・管理ガイドライン」や世界の治療ガイドラインにおいても、吸入ステロイド薬はぜんそく治療の主役となっています。また、子供のぜんそくでも、だんだんと必要性が増してきています。ぜひ、ステロイド薬に関する正しい知識と吸入療法の重要性を理解し、ぜんそくを上手にコントロールすることによって、健康な人と変わらない生活を送っていただきたいと思います。

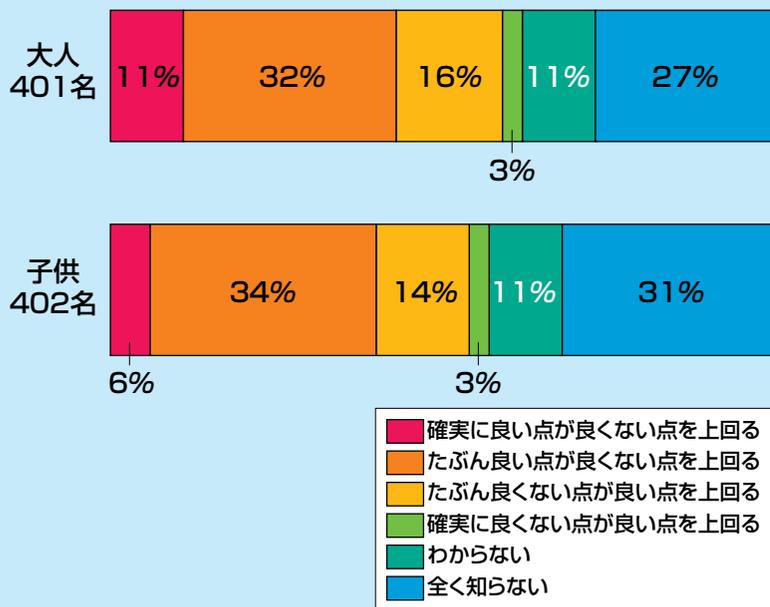
	ページ
はじめに	1
吸入ステロイド薬の印象はあまり良くない?	3
吸入ステロイド薬が理解されていないのが現状です。	4
治療目標に向かってぜんそくを上手にコントロールしましょう。	5
質問 “ぜんそく”は、どんな病気?	7
質問 気道の炎症を鎮めるには?	9
質問 吸入ステロイド薬の正しい使い方は?	10
質問 吸入ステロイド薬と吸入気管支拡張薬は違うの?	11
質問 吸入ステロイド薬と全身性ステロイド薬の違いは?	13
質問 吸入ステロイド薬はいつまで続けるの?	15
質問 吸入ステロイド薬をより安全に使うためには?	16
主な吸入ステロイド薬	17

吸入ステロイド薬の印象はあまり良くない？

日本のぜんそく患者さん803名*を対象にした「全国喘息患者電話調査2000」によると吸入ステロイド薬について「良い点が良くない点を上回る」と回答した患者さんは約40%にとどまりました。

*大人401名、子供(保護者)402名

吸入ステロイド薬の長所・短所



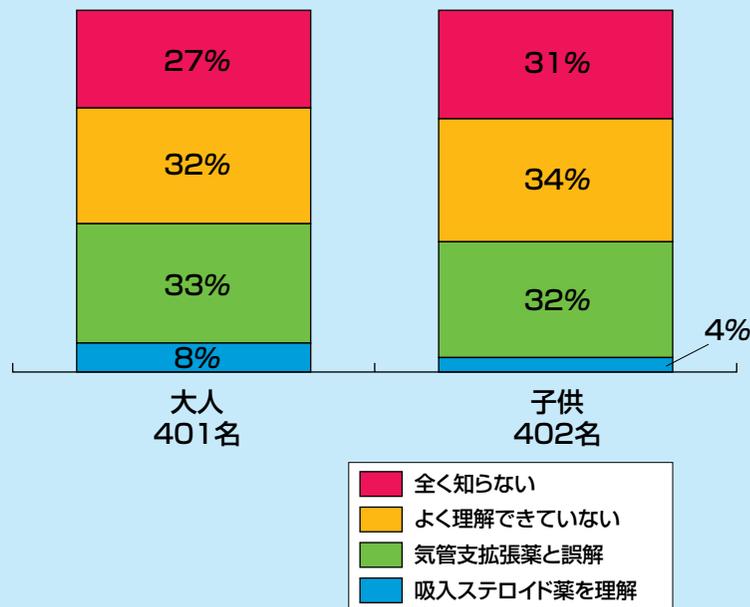
[全国喘息患者電話調査2000]

吸入ステロイド薬が理解されていないのが現状です。

この調査でほとんどの患者さんが吸入ステロイド薬について理解していないことがわかりました。

吸入ステロイド薬はぜんそくの治療薬として中心的な役割を担っていますが、間違った使い方をすると効果が十分に発揮されません。吸入ステロイド薬について正しい知識をもちましょう。

吸入ステロイド薬の理解度



[全国喘息患者電話調査2000]

治療目標に向かって ぜんそくを上手にコントロールしましょう。

ぜんそく治療の目標

- ▶ 健康人と変わらない日常生活をできること。正常な発育が保たれること
- ▶ 正常に近い肺機能を維持すること
- ▶ 夜間や早朝の咳や呼吸困難がなく夜間睡眠が十分可能なこと
- ▶ 喘息発作が起こらないこと
- ▶ 喘息死の回避
- ▶ 治療薬による副作用がないこと

喘息予防・管理ガイドライン1998 改訂版より



ぜんそくの治療目標は、健康な人と変わらない生活を送れるようになることです。吸入ステロイド薬による治療を十分理解し、治療目標に向かって上手にぜんそくをコントロールしましょう。

ぜんそく治療の目標（子供）

- ▶ スポーツも含め日常生活を普通に行う
- ▶ 昼夜を通じて症状がない
- ▶ β_2 刺激薬の頓用が減少、または必要がない
- ▶ 学校を欠席しない
- ▶ 肺機能がほぼ正常
- ▶ PEF（ピークフロー）が安定している

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2005より



質問 “ぜんそく”は、どんな病気？

答え “ぜんそく”は、気道の炎症によって気道が狭くなる病気です。

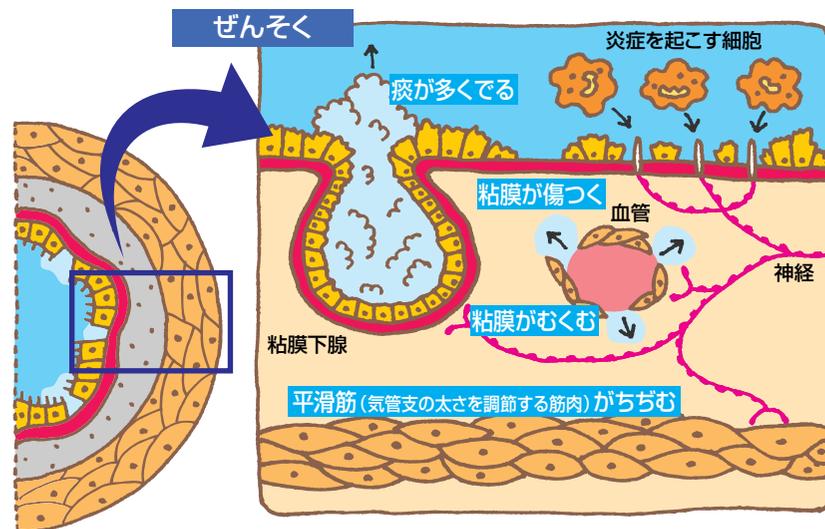
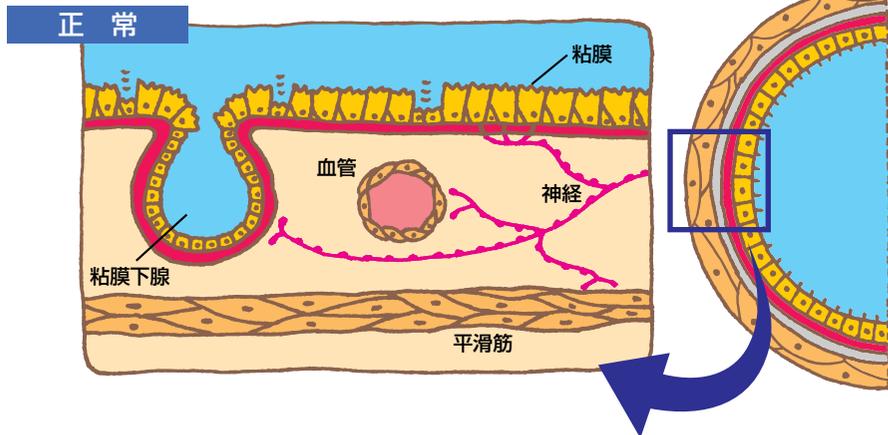
答え “ぜんそく”は、気道の炎症によって気道が狭くなる病気です。

ぜんそくと気道

ぜんそくは、気管支などの空気の通り道(気道)が発作的にせまくなり、ゼーゼー、ヒューヒューと息苦しくなったり、痰が増えたりして息ができず、大変苦しい病気です。ぜんそくは、気道に種々の刺激(発症因子、増悪因子)が加わって気道が慢性的の炎症を起こしたり、気道が狭くなったりします。

アレルギーは、その発症因子の1つとして最も重要なものと考えられています。気道の炎症をそのままにしておくと、気道は種々の刺激(増悪因子:たばこ・冷たい空気など)に対して過敏(気道過敏性亢進)になり、やがては気道に不可逆性(もとに戻らない)変化を起こしてしまいます。

ぜんそくの患者さんの気道では、下の絵のような変化(炎症)が起きていて、あらゆる刺激に対して、気管支が収縮しやすい状態になっています(気道過敏性亢進)。炎症は発作のないときでも続いています。これは大人のぜんそくでも子供のぜんそくでも同じです。



質問 気道の炎症を鎮めるには？

答え 吸入ステロイド薬が効果的です。

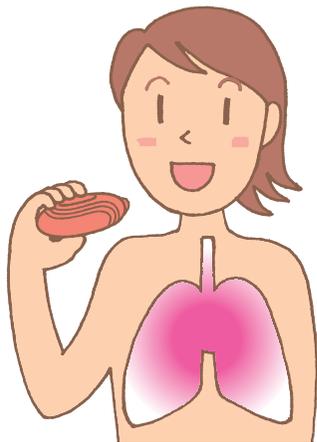
吸入ステロイド薬のはたらき

ステロイド薬は、炎症を鎮める作用が最も強い薬です。

特に、吸入ステロイド薬は、薬が気管支に直接届くので、内服のステロイド薬より少量で効果があり、副作用が少なくてすみます。

吸入ステロイド薬は、炎症を起こす細胞を抑え、気道の炎症を鎮めます。これによって粘膜の傷害が改善し、発作が起こりにくくなります。

ぜんそくは慢性の病気で、発作(症状)がないときにも気管支の炎症は続いています。したがって、発作(症状)がないときにも吸入ステロイド薬を用いて炎症を抑えることがぜんそく治療には重要です。(10-12ページ参照)



質問 吸入ステロイド薬の正しい使い方は？

答え 発作(症状)がなくても、毎日続けて吸入することが大切です。

毎日規則正しく続けることが大切

ぜんそく患者さんの気道には、発作(症状)がないときにも炎症があります。

炎症を鎮める働きをもつ吸入ステロイド薬は、症状の有無にかかわらず毎日吸入することによって効果が得られるため、勝手に止めたり、吸入を休んでしまうことのないようにしましょう。吸入ステロイド薬は、毎日規則正しく続けることが大切です。中止または減量するときには、必ず担当の医師にご相談ください。(15ページ参照)





吸入ステロイド薬と吸入気管支拡張薬は違うの？



吸入ステロイド薬は気道の炎症を鎮める薬、吸入気管支拡張薬は気道を広げる薬です。

ぜんそく治療薬

ぜんそくは気道の炎症を鎮める薬と気道を広げる薬の2種類を組み合わせで治療します。吸入ステロイド薬は炎症を鎮める薬、吸入気管支拡張薬は気道を広げる薬です。さらに、吸入気管支拡張薬は、長時間作用の薬と短時間作用の薬に分けられます。それぞれの役割を理解して正しく使いましょう。吸入ステロイド薬で気道の炎症を鎮め、ぜんそくが上手にコントロールできれば、発作が起りにくくなるため短時間作用の気管支拡張薬の必要が少なくなります。

吸入ステロイド薬

- ぜんそくの本態である気道の炎症を治療するコントローラー（長期管理薬）です。ぜんそくの悪化を防ぐ効果があります。
- すぐに効果が現れる薬剤ではありません。発作には使わないでください。
- 発作がなくても毎日規則正しく吸入しましょう。
- ドライパウダー吸入薬とエアゾール吸入薬があります。



吸入ステロイド薬は気道の炎症を鎮める薬、吸入気管支拡張薬は気道を広げる薬です。

吸入ステロイド薬と気管支拡張薬の役割

吸入ステロイド薬は、毎日規則正しく用いることによって気道の炎症を鎮める薬です。長時間作用の吸入気管支拡張薬も毎日定期的に使う薬ですが、炎症を鎮める作用はありません。吸入ステロイド薬を使ってもみられるぜんそく症状を出にくくするための薬です。吸入ステロイド薬や長時間作用の気管支拡張薬のような長期間毎日使う薬剤をコントローラー（長期管理薬）と呼びます。

コントローラーを使ってもコントロールが不十分で発作が起きてしまったとき、速やかに発作を鎮めるのが短時間作用の気管支拡張薬です。これは、リリーバー（発作治療薬）と呼び、基本的に発作のときのみを使い、続けては使うことはありません。

長時間作用の吸入気管支拡張薬

- 気道を広げぜんそくの症状を出にくくするコントローラー（長期管理薬）です。
- 毎日規則正しく吸入しましょう。
- 吸入直後に効果が現れる短時間作用の気管支拡張薬に比べゆっくり効果が現れます。発作時には使わないでください。



短時間作用の吸入気管支拡張薬

- 発作を速やかに鎮めるためのリリーバー（発作治療薬）です。
- 発作のはじまりや発作がひどくなる前に吸入すると効果的です。
- 1回の吸入量を守りましょう。
- 発作時の乱用は危険です。医師からあらかじめ指示された回数を吸入しても効果がみられない場合には、速やかに医師の治療を受けましょう。





**吸入ステロイド薬と
全身性ステロイド薬の違いは？**



**吸入ステロイド薬は全身性ステロイド薬に
比べ、全身性の副作用が少ない薬剤です。**



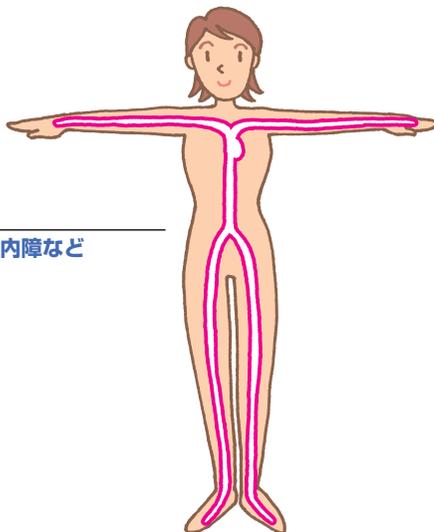
吸入ステロイド薬は全身性ステロイド薬に
比べ、全身性の副作用が少ない薬剤です。

ステロイド薬とは

ステロイド薬は炎症を抑える作用がたいへん優れた薬剤です。

そのため、ぜんそくが悪くなったときには、気道の炎症を強力に抑えるために注射剤や経口剤などの全身性ステロイド薬を使用することがあります。

しかし、ステロイドはもとは副腎皮質ステロイドホルモンと呼ばれる生体内の物質で肺や気管支ばかりでなく他の臓器にも作用を示すため、全身性ステロイド薬を長期にわたって大量に使用する場合は注意が必要です。



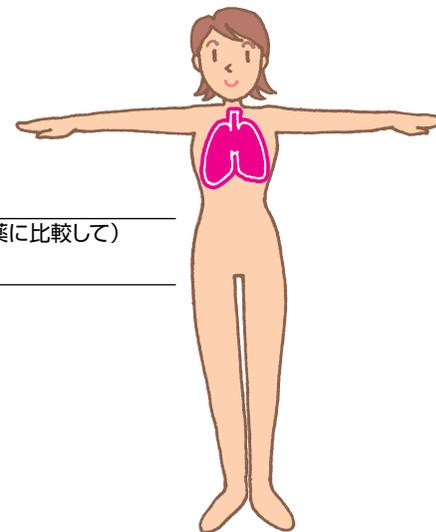
●全身性ステロイド薬

特長:全身に作用

副作用:副腎皮質抑制、骨そしょう症、白内障など
(長期、大量投与時)

吸入ステロイド薬の特徴

吸入ステロイド薬は気管支に直接届くため、注射剤や経口剤などの全身性ステロイド薬に比較して、少ない量で効果が得られ体内に吸収されることが少ないので副作用も少なくなります。注意しなければならない副作用は口腔カンジダ症などの局所症状です。しかし、これもうがいなどによって防ぐことができます。(16ページ参照)



●吸入ステロイド薬

特長:直接作用

少量の薬剤(経口ステロイド薬に比較して)

副作用:主に局所症状

声がれ
口腔カンジダ症

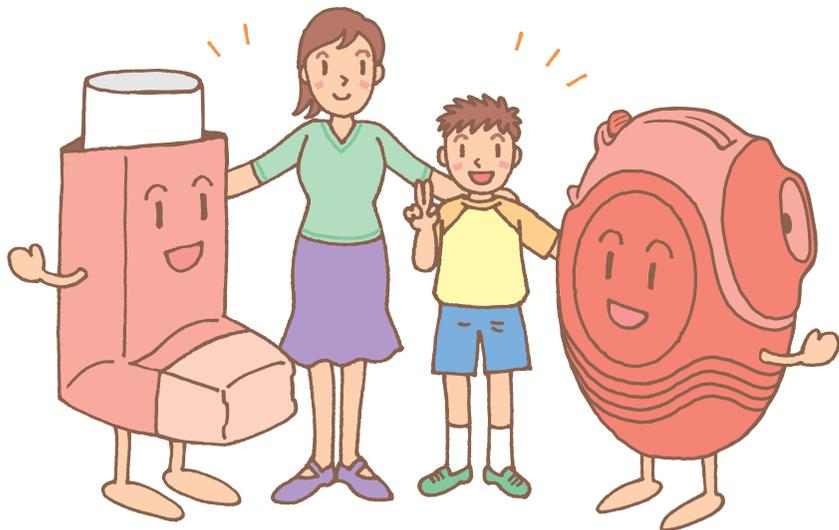
質問 吸入ステロイド薬はいつまで続けるの？

答え 長く続けることが基本です。

ぜんそく治療は長く続けることが基本

ぜんそくは、高血圧や糖尿病などと同じ慢性の病気です。

したがって、ぜんそく治療も、基本的に長く続けていかなければなりません。しかし、吸入ステロイド薬によってぜんそくを上手にコントロールすることができれば、気道の状態を観察しながら、吸入ステロイド薬の量を減らしていくことも可能です。子供のぜんそくは成長とともに治ることもあります。過信せずにきちんと治療をし、発作のない状態を維持することが大切です。



質問 吸入ステロイド薬をより安全に使うためには？

答え 吸入をしたら必ずうがいをしましょう。

吸入後のうがいが大切

吸入後は、必ずうがいをしましょう。

吸入によって口のなかに残った薬剤は、水でうがいを流します。こうすれば、吸入ステロイド薬にみられる口腔カンジダ症などの局所の副作用を防ぐことができます。



主な吸入ステロイド薬

フルタイド ディスカス



フルタイド エアー



フルタイド ロタディスク



パルミコート
タービュヘイラー



キューバル100

